

自治大卒業生の声②

自治大卒業生（第2部課程第182期）

小田原市役所 杉崎 恵理子

編集者注：本稿は、自治大卒業生における演習・講義の特長や卒業後の研修効果の発揮などについて、自治大卒業生の卒業生が記したものです。

1 はじめに

私は、基本法制研修Bと第2部課程に参加させていただいた。平成30年度から研修計画が見直され、いわゆる座学中心の基本法制が選択制となり、研修期間前半に集中的に受講し効果測定を受けた後、演習が多く組まれた第2部課程に入るといった流れだった。基本法制研修Bにあっては、記念すべき“第1期生”となり、こそばゆさがある一方で、諸先輩方が長年受講されてこられたカリキュラムとは異なり不安な気持ちもあった。

2 基本法制研修Bの概要

基本法制研修Bでは、行政法、民法、地方自治制度、地方公務員制度、地方税財政制度を受講した。幅広い学習範囲に比べ講義時間が限られていたため、進め方が早かったことは否めない。しかし、制度の仕組みをはじめ、地方公務員としての基本的な知識や実務に即した法令・制度を体系立ててご教授いただき、改めて学び直しの機会をいただけた。また、地方公共団体を取り巻く環境の変化が著しい中で、国の制度改革の動向を知ることができたことは大変意義深かった。

3 第2部課程の概要

第2部課程は、すべての行政分野に亘ると言っても過言ではないカリキュラム構成だった。今まさに地方自治体が抱えている諸課題についてご教授いただき、視野が広

がるとともに、公共政策を考える上で全体を俯瞰して見る力が養われたと感じている。そして、多くの時間が充てられたのが演習だった。テキスト型・持寄型の事例演習をはじめ、政策立案演習、模擬講義演習と、それらに伴う個人学習とグループ討議。「自ら調べ、考え、それを伝え、グループとしての考えをまとめる」という徹底した思考・議論の仕方の訓練だった。

4 研修の特長

研修内容を振り返り、次の2点について特筆したい。

1点目は演習課目による「一貫したスキルの養成」である。中でも政策立案演習では、政策形成の一連の流れを実践した。テーマの深掘り、現状把握・分析、課題抽出、明確なエビデンス、政策提言…。これら一つ一つに対し班員と議論を重ね、知恵を絞り出す。問題となっていることは何か、根拠は何か、明示できる効果は何かなど、ときに頭を抱えながらも多角的に考察する。そして、より現実的な提案となるよう現地視察を行い、確かな根拠を探るべく関係者や企業等への取材活動へ。定期的に提出する進捗確認や問題意識の共有化に繋がる資料も有効に働き、進んでは戻っての繰り返しだったが、それによりブラッシュアップできたのも事実である。併せて、外部指導教官のご指導もあり、班員同士、お互いの意見や思いを尊重し合い、何より楽しみながら一つの形にできたことは大きかった。班員と協力しながら各プロセスを丁寧に積み上げる。この一連の流れは日々の業務にも通ずるものであり、改めてその大切さを学んだ。

2点目は「魅力的でユニークな講師陣」で

ある。その道のスペシャリストからの教えには重みがあり、働き方改革を進めていく現状において、どのように政策形成していくべきか気づきをいただいた。どの講義でも共通していたことは、「地域の可能性を見出すこと、魅力的な地域とするにはどうすべきかという視点を持つことが重要である」という教え。行政だけで課題に立ち向かうことが困難な今日、「地域や民間が発揮する力の重要性や、その力の結集が持続可能な地域社会をもたらす生産性に繋がる」という考え方。基礎自治体の職員として当然のことではあるが、実務を進める上で背中を押していただけたものだった。

また、リーダーとしての心構えなど、たくさんの方に残る言葉をいただいた。自らの心を養い、人間が持つ可能性を信じ、常に人に対して関心を持つ…。今後マネジメントをする上での道標となるであろう。

5 かけがえのない仲間

今回の研修を通じて、様々な分野における地方自治体の現状・課題、それに対する取組や施策について仲間の研修生と議論・意見交換できたことは、とても有益だった。全国の精鋭ぞろいの自治大。仕事で行き詰った時には悩みを相談し、先進的な取組を共有できる。そのような貴重な人脈が得られるのも、この研修に参加したからこそである。

かけがえのない仲間たち。第2部課程第182期の仲間とは寝食を共にし、講義や休日の時間を共有することで、お互いを知り、励まし合ってきた。講義と演習で目まぐるしくもあり、一方で一日一日が新鮮でもあった2か月。提出物や資料作成が重なり寝不足な日々が続いても無事に研修を終えられたのは、いつも仲間がそばにいて、語り合い、頑張る姿を見てきたからである。今は全国各地で活躍し、早々に会えるものではないが、自治大でできた絆はこれから一層

強くなると思っているし、そのことが楽しみでもある。

6 最後に

職場を離れることの不安、研修を乗り切れるのかという懸念は誰もが持つもの。自治大は、そのような心配を上回るほど、個々に応じた気づきを見つけられ、素晴らしい仲間と経験が得られる場所である。この自治大での研修の機会を積極的に掴んでいただき、同じ思いを共有できる方が増えるならば、大変嬉しく思う。